平成１６年３月期　第１四半期業績の概況（連結）

平成１５年7月３０日

上場会社名　沖電気工業株式会社　（コード番号：６７０３　東証第１部）
（ＵＲＬ　http://www.oki.com/jp　）
問 合 せ 先　代表者　代表取締役社長　篠塚 勝正　（ＴＥＬ：０３－３５０１－３１１１）
責任者　広報部長　森 淳

１．四半期業績の概況の作成等に係る事項

① 会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無：　無
② 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況
連結　：（新規）１社、（除外）０社
持分法：（新規）０社、（除外）０社

２．平成１６年３月期第１四半期の業績概況（平成１５年４月１日　～　平成１５年６月３０日）
（百万円未満切捨）

（１）　経営成績（連結）の進捗状況

	売　上　高		営 業 利 益		経 常 利 益		当期(四半期)純　利　益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
１６年３月期第１四半期	111,812	15.3	△ 13,084	－	△ 14,101	－	△ 11,063	－
１５年３月期第１四半期	97,011	－	△ 15,049	－	△ 18,513	－	△ 12,449	－
(参考)15 年 3 月期	585,473	△3.2	1,368	－	△ 7,849	－	△ 6,560	－

	１株当たり当期純利益	潜在株式調整後１株当たり当期純利益
	円　銭	円　銭
１６年３月期第１四半期	△ 18.08	－
１５年３月期第１四半期	△ 20.33	－
(参考) 15 年 3 月期	△ 10.72	－

(注)１．売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

※　四半期決算の開示については、当第１四半期より実施しております。なお、平成１５年３月期第１四半期についての開示は行っておりませんが、当第１四半期と同様の方法により算出したものであります。

① 当期の概況

当四半期における経済環境は、イラク戦争の勃発やＳＡＲＳの流行など景気回復への不透明感をよりいっそう強めて推移いたしました。国内におきましては当期後半に株式市況の回復という明るい面も見えましたが、全体としては景気の底這いという状況にありました。

当社の事業領域におきましては、ＩＴ関連投資の伸び悩み、不良債権問題による金融機関の投資抑制など厳しい環境が続いており、半導体市況につきましても緩やかな回復に留まっております。

このような厳しい市場環境の中、５月２６日の三陸南地震により半導体生産子会社の宮城沖電気株式会社の生産ラインが一時停止いたしましたが、事業分野全体としましては第三次構造改革が着実に進み、当四半期の連結売上高は前年同期比１５.３％増の１,１１８億円、連結営業利益は前年同期１５０億円の損失から１９億円改善し１３１億円の損失となりました。連結経常利益につきましても前年同期１８５億円の損失から４４億円改善し１４１億円の損失となりました。連結四半期純利益につきましては、前年同期の１２４億円の損失に対し１１１億円の損失となりました。

なお、当社は第２、第４四半期に売上が集中し利益も改善する構造となっており、当期の損失はほぼ、当初の計画通りとなっています。

② 事業セグメント別の状況

【情報セグメント】

ＩＴ市況の低迷、公共投資の抑制、デフレ経済下での競争の激化は続いておりますが、新紙幣対応の需要増加もあり、外部顧客向け連結売上高は前年同期比１３.８％増の５７６億円となりました。営業利益については、事業の再構築による大幅な固定費の削減、調達コストの削減等により前年同期の３８億円の損失に対し２６億円の損失へと改善致しました。

【通信セグメント】

通信キャリアの投資抑制、民間設備投資の低迷は引き続いておりますが、外部顧客向け連結売上高は前年同期比２０.２％増の１６６億円を確保致しました。営業利益については、事業の再構築による大幅な固定費削減もあいまって前年同期の３２億円の損失に対し２８億円の損失へと改善致しました。

【電子デバイスセグメント】

三陸南地震による生産ラインの一時的停止が生じたものの、当社の得意とする「パーソナル＆モバイル」市場向け商品である携帯電話用音源ＬＳＩ、大型液晶ディスプレイ用ドライバＬＳＩ等が堅調に推移し、外部顧客向け連結売上高は前年同期比６.８％増の２７２億円となりました。営業利益は売上増に伴い、前年同期の５０億円の損失に対し４８億円の損失へと改善致しました。

（２） 財政状態（連結）の変動状況

	総　資　産	株 主 資 本	株主資本比率	１株当たり株 主 資 本
	百万円	百万円	%	円　　銭
１６年3月期第1四半期	606,443	92,451	15.2	151.12
１５年3月期第1四半期	608,992	94,720	15.6	154.74
(参考) 15 年 3 月期	622,891	101,323	16.3	165.63

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期　末　残　高
	百万円	百万円	百万円	百万円
１６年3月期第1四半期	△　973	△　3,002	4,821	30,321
１５年3月期第1四半期	△　15,899	△　7,059	5,931	27,739
(参考) 15 年 3 月期	225	4,317	△　20,077	29,294

① 総資産等の状況

前年度末に対して総資産は１６４億円減少しましたが、株主資本が８９億円減少したため株主資本比率は１５.２％と１.１ポイント低下致しました。

増減の主なものは、流動資産では棚卸資産が２２７億円増加、受取手形及び売掛金が４５２億円減少しており、固定資産では有形固定資産が２７億円減少、投資有価証券が４２億円増加しております。

また、負債は７５億円減少しておりますが、主なものは、支払手形及び買掛金の１０１億円の減少であります。

② キャッシュ・フローの状況

当期の営業キャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失の減少、仕入債務残高の増加などにより、前年同期の１５９億円の支出に対し１４９億円改善し１０億円の支出となりました。

投資キャッシュ・フローにつきましては、設備支払高が減少し前年同期の７１億円の支出に対し４１億円良化して３０億円の支出となりました。

営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローとをあわせたフリー・キャッシュ・フローは前年同期の２３０億円の支出に対し、１９０億円改善し４０億円の支出となりました。

財務キャッシュ・フローは、コマーシャルペーパーの純増加１１０億円、社債の償還７７億円等により、４８億円の収入となりました。

その結果、現金同等物等の四半期末残高は前期末２９３億円から１０億円増加し３０３億円となりました。

（３）平成１６年３月期の連結業績予想（平成１５年４月１日　～　平成１６年３月３１日）

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	１株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円　銭
中間期	265,000	△11,000	△10,500	△17.16
通期	630,000	11,000	3,500	5．72

［業績予想に関する定性的情報等］

日本経済におきましては依然として先行きの不透明感が残るものの、一部の市場において景気回復の兆候が顕在化しつつあり、市況回復の期待感が高まってきております。このような中、当社グループの平成１６年３月期の中間連結業績につきましては、５月２６日に発生した三陸南地震および７月２６日に発生した宮城県北部を震源とする地震の影響で、当社の子会社である宮城沖電気において３０億円の特別損失が発生する見込みであり、当期純利益は４月２８日公表の８５億円の損失から１０５億円の損失へと２０億円悪化する見通しです。

両地震の影響によりデバイス部門の売上および営業利益は当初計画に対し未達の見込みですが、情報および通信部門の業績は当初計画より順調に推移しており、デバイス部門の落ち込みを十分カバーできると想定しております。従いまして、連結中間期業績予想での売上高、営業利益および経常利益につきましては、４月２８日の公表通りと致します。

また、平成１６年３月期連結業績予想につきましては、今後、経常利益段階での業績改善に努め中間期での悪化分を回復してまいります。通期業績予想は４月２８日の公表通りとさせていただきます。

以　上